

こんなこと
やってるよ!

活 動 紹 介

富士見町“御射里の会”

力を合わせて取り組む獣害対策

私たちの会の名前は「御射里の会」といいます。ちょっと読みにくい名前ですが、諏訪大社にちなんだ集落名「御射山神戸」から取りました。諏訪大社の御射山社をおまつりするために作られたという由緒ある集落です。後に甲州街道の間の宿場になったこの集落でも、野生鳥獣の被害や耕作放棄地の増加が著しく、地域の重要な課題となっています。「御射里の会」は、この課題と真っ向から取り組むために地元有志を中心に結成されました。

その「御射里の会」で、5年ほど前に当地の耕作放棄地の分布を調査したところ、鳥獣害の増加と大きな関連があることがわかりました。耕作放棄地をほっておくと、そこを伝ってイノシシやシカが集落内部まで侵入してくるのです。みんなでいろいろと相談した結果、集落を取り囲む耕作地と耕作放棄地、里山を、いくつかのエリアに分けて対策を立てることにしました。①耕作地として残していく区域 ②里山に戻して里山としての土地利用を考える区域 ③その中間的な場所で耕地を守るような土地利用を考える区域、の3区域です。行政・民間の助成金などを活用し、①についてはブルーベリーの植栽、②に付いては作業道・里道などを利用したMTB（マウンテンバイク）のコースの設置、③に付いてはヒツジの放牧場、とバラエティに富んだ取り組みになりました。

その結果、MTBコースはシカに、ヒツジの放牧はイノシシに、それぞれ効果があるようで、だいぶ被害が減ってきています。また、同時に奥山に餌場を作るため、どんぐり

を拾って苗を作り、植えるということも始めました。多岐に渡る活動ですが、会員の中にも“専門分野”のようなものができ、それなりにこなしています。環境保全研究所の出前講座として、現地を見てのアドバイスもいただき、地元もだいぶ盛り上がってきました。これからも、郷土愛を合言葉にがんばっていこうと話しているところです。

(下平 武)



ヒツジは子供たちのアイドルです。(写真提供:広報ふじみ)

会への連絡先

御射里(みさと)の会 事務局
〒399-0211 諏訪郡富士見町御射山神戸11404-221
電話 0266-62-6122
Eメール kama399@yahoo.co.jp

こんな本みつけた!

読 書 案 内

『カラー版 知床・北方四島—流氷が育む自然遺産』

大泰司紀之・本間浩昭(岩波新書,196ページ,1000円+税,2008年5月発行)

知床は2005年、世界自然遺産に登録された。本書によるとこの一帯は「北半球で最も南まで流氷が押し寄せ、海と陸が一体となった生態系」であり、このような生態系は地球上でほかにない。しかしこうした自然の特徴は、知床の先につらなる「北方四島からウルップ島にこそ」よくあてはまるという。

本書でまず目を引くのは、この島々の豊かでダイナミックな生態系と野生生物の姿が、臨場感あふれる多くのカラー写真で描き出されていることであろう。クジラやアザラシ、ラッコ、ヒグマ、サケ、シマフクロウ、エトピリカなどなど。この生態系の豊かさを支えるのは、流氷のできる海域から運ばれてくる豊富な栄養塩であり、これをとりこんで大発生する植物プランクトンである。

旧ソ連時代に守られてきたこの生態系が、ロシアの資本

主義経済への移行以後、大きく崩れはじめている。カニやウニなどの密漁と乱獲が行われ、大半が日本に“輸出”されている。大規模な開発も進みつつある。領土問題が、有効な保全対策を遅らせている。

この状況に対し本書は、世界自然遺産・知床のエリアを「北方四島の北隣のウルップ島まで広げる」ことを提言する。領土問題の解決に先立って、日露両国が生態系保全のために共同歩調をとる道が、そこから開けるからである。

(紹介者 須賀 文)



ヘビを食べたイワナの話

北野 聡

今年6月に上高地で開催した自然ふれあい講座で、カワマスがヘビを食べる場面に遭遇しました。岩魚の貪欲な食性^{どんよく}を語る際に、しばしば引き合いに出される話ですが、それを実際に目撃する例は多くはないでしょう。

場所は梓川右岸を明神から河童橋に戻る道の中程にある細流です。6月おわりの週末、午後2時半頃、観察会の参加者が浅瀬の異変に気づいたときには、全長およそ25cmのカワマス（北米原産イワナ）がすでにヘビ（ヒバカリと思われる全長25～30cmの個体）の頭をしっかりと呑み込んでいました（写真参照）。それから、この一大イベントを見逃すまいと川沿いの遊歩道にはちょっとした人垣ができました。

ヘビもなんとか逃れようと、イワナの頭部から胴にかけて巻き付いて抵抗を試みます。5分ほど観察していましたが膠着状態^{こうちやく}が続き、残念ながら「生と死」のドラマの結末までは確認することができませんでした。カワマスはとにかく時間をかけてヘビを呑んだのか、食うのが大変とわかって吐き出したのか、それとも動きの鈍ったカワマスとヘビは空から舞い降りたアオサギにいつぺんに食われてしまったか…

実は20年ほど前にも、北海道知床半島の川で似たような状況を目撃しています。その時も全長15cmほどのオショロコマ（日本では北海道だけにすむイワナ）が白っぽいヘビの幼体を頭から呑もうとしていたのです。しかし、確認するためシュノーケリングで潜った淵では、口から長いものを出した彼は淵の他のオショロコマから終始攻撃を受け、その顔は「とんでもないものに食いついてしまったなあ」と困惑しているように映りました。

岩魚にとって蛇はかならずしも良い餌ではないようです。

（きたの さとし／自然環境部）



写真中央に注目、カワマスとヘビの闘い（撮影 大塚孝一）



公開セミナーを開催します

研究所でおこなってきた調査研究の成果や業務の内容を、一般の方々にわかりやすくお知らせするために、毎年「公開セミナー」を開催しています。本年度も、以下の日程で開催します。詳細は、12月になってから、研究所のホームページやマスコミ等を通じてお知らせします。

入場は無料で、事前の申し込みは不要です。参加ご希望の方は、当日、直接会場までお越しください。大勢の方々のご参加をお待ちしています。



昨年の公開セミナーの様子(平成20年2月;上田市)

平成20年度テーマ「変わりゆく信州の自然」

日時●平成21年2月8日(日) 12:00~16:00

場所●塩尻総合文化センター(塩尻市中央公民館)

プログラム

- 12:00~ 開場/ポスター展
- 13:00~ ごあいさつ・研究所の紹介
- 13:10~14:10 「地球温暖化と信州」
地球温暖化現象が長野県でどのように現れているか、気温と雪から調べてみました。また、植物の季節変化にも注目しました。それらの研究成果を報告します。
<14:10~14:20 休憩>
- 14:20~15:20 「広がる外来生物」
本来その地に生息していなかった生物が、人間活動によって持ち込まれた場合、新たに定着し広がることがあります。そのような外来生物の長野県の現状について報告します。
- 15:20~16:00 意見交換会

日時●平成21年2月15日(日) 13:10~16:30

場所●長野市生涯学習センター (TOiGO WEST)

プログラム

- 13:10~ 開場
- 13:30~ ごあいさつ・研究所の紹介
- 13:40~14:40 「里山のこれから」
里山は、その時々の人々の暮らし方に応じて変化してきました。その事情は今後も変わりません。里山のこれまでの変遷と今を見つめ直し、これからの考えます。
<14:40~14:50 休憩>
- 14:50~15:50 「希少野生動植物の保全」
長野県内の希少野生動植物をどのように保全していくかは、生物多様性を保つために大きな課題です。今回いくつかの希少種を取り上げて、その現状と保全について考えます。
- 15:50~16:30 意見交換会

※各会場の小テーマ名は予定です。今後、変更する場合がありますので、ご了承ください。

よもくまんの芸術とは何だ



作・ももよ

編集後記

特集では温暖化問題に関する研究をとりあげました。巻頭には、温暖化による影響を国内外で精力的に研究されている水野氏から寄稿をいただきました。地球規模の問題と足元の環境がどう結びついているのか、また私たちにできることは何かを今後も一緒に考えていきたいと思います。ご意見やご質問等、遠慮なくお寄せください。(編集担当 富樫)



この印刷物は、大豆油インクおよび古紙配合率70%再生紙を使用しています。